

医学部生ピックアップ! (学生紹介)

～コロナから何を学ぶ～

勉強、実習、部活に追われがちな医学生ですが、今回この特別コーナーで紹介するのは、学校を飛び出した独自の活動が目玉の人物です。新型コロナウイルス感染症により社会が大きく変化の中で、一学生として、一人間として、彼女は何を考え動いたのか…。この記事では、約6か月に及ぶ彼女の活動を、体験記の形で紹介します。

◆「先進国と感染症」

「日本を初めとする先進国に住む人々の健康を脅かす病気は何か?」と聞かれると、癌や生活習慣病を思い浮かべるのではないかと思います。実際、日本人の半分程度が一生のうちに癌を罹患し(2014年・1)、男性の4人に1人、女性の7人に1人は癌(悪性新生物)が原因で死亡(2019年・2)することが明らかになっています。一方で、ワクチン接種による予防法が発達し、治療薬へのアクセスが増えたことにより感染症系疾患の疾病負担は減少しました。世界は天然痘の根絶に成功し、不治の病と言われていたHIV/AIDSの患者も今では早期かつ適切に治療を継続すれば平均寿命は一般の人と変わらず健康的に生活することが出来ます。ここ半世紀で、特に感染症を中心に医療は飛躍的な進化を遂げ、先進国では多くのワクチンが定期接種化され、まるで感染症による恐怖は忘れ去られていたかのようでした。



プロフィール
長崎大学医学部医学科5年
長崎大学医学部歯学部ダンス部
長崎大学医学部ソフトテニス部
日本熱帯医学会学生会設立、代表
山崎里紗さん

2019年12月、中国湖北省武漢市で原因不明の肺炎が報告されて以来、瞬く間に新型コロナウイルス感染症の波紋が全世界へと広がっていき、2019年3月には多くの国で医療提供体制確保が困難な状態に追い込まれ、ロックダウンや外出自粛要請によって市場混乱に端を発し、世界恐慌以来の経済危機に瀕しているとも言われています。今の時代を生きている私たちは、ウイルスが世界を一変させる場面を目の当たりにし、感染症パンデミックの脅威を身を以て経験しました。そして、これから当面の間見通しの立たない社会を生きている覚悟をしなくてはなりません。

研究センター がん情報サービス
https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/summary.html
◆「時間なら無限にあります。なんでもします。働かせてください。」
アフリカへのフライトの二日前の出来事でした。貧困国の医療問題に関心があり1年に1度アフリカを訪れる私は、2020年の春もコンゴ共和国(アフリカには「コンゴ」が二つあるが、有名ではない方の「コンゴ」)で働く知人を尋ねにアフリカへ行くフライトを控えていました。しかし、新型コロナウイルスが少しずつ猛威を振るい始めた3月頭、アフリカへの旅路でフライト欠航や到着後強制隔離の可能性を否定できない状況であり、もしそうになると必死で働いたバイト代が全て水の泡になってしまう、と頭を悩ませていました。
足を踏み止めるべきかどうか迷っていた出発2日前の深夜2時に、ジュネーブで働か

ぐびろが丘



編集長
武田玲依奈 (学友会 広報部)

編集部
長崎大学医学部ぐびろが丘編集部
長崎医学同窓会
〒852-8523 長崎市坂本1丁目12番4号
☎095-848-5484
E-mail: ryojun_do@ml.nagasaki-u.ac.jp

印刷
株式会社インテックス

れている知り合いの先生から突然、「こんな案内があるよ。」と一通のメールが届きました。それは、厚生労働省クラスター対策班のデータ集積作業ボランティア募集の案内でした。

歴史的なパンデミックの感染症対策の議論の中枢の場所、学部学生として厚生労働省で仕事ができる機会など滅多にありません。将来の進路として感染症をはじめとする熱帯医学を専攻したいと考えていた私は「行きたい。」と強く思いました。

しかし、私のような学部学生なんて知識や経験もなく、組織に貢献できるスキルなんてたかが知れているのが現状であり、何よりも、その募集案内は私宛に直接送られてきたものではありませんでした。頭の中で理解はしていても、何としてでもこのチャンス逃したくないと強く心に感じた私は、先生からメールをいただいですぐにクラスター対策班へメールを送りました。

「前略」私は学部学生で、確かにスキルや経験は少ないですが、「時間なら無限にあります。なんでもします。働かせてください。」
私は未熟者ですが、どんな時間でもどんな雑務でもするのでどうかお仕事をさせてください、と懇望して長文のメールを送らせていただきました。

すると、10分後に返信がきました。

「ありがとうございます。それでは、明日から東京へ来ることが出来ますか?」

コンゴ共和国行きのフライトを全てキャンセルして、その日のうちに東京へ向かいました。

◆厚生労働省クラスター対策班
私は2020年3月から厚生労働省のクラスター対策班に出向き、感染症サーベイラ

ンスのデータベース構築に協力させていただきました。業務内容は地方自治体の報道資料からデータ入力やクリーニング作業が中心です。感染症対策といえば、新規感染者数推移や今後の感染動向のデータ解析が注目される傾向にあります。そのためにも必要となるのは、迅速かつ質の担保されたデータセットです。私は、国難の状況下で一番問題になるのは「データ集積」であると考えています。中央組織が機能しているだけでは高精度な感染者データを集積することはできません。地方分権が進む日本では地方自治体ごとの裁量で感染症サーベイランスのフロアが存在し、業務を進める過程で、省庁をはじめとする中央組織と地方組織の連携が十分でないと感じた部分が少なからずありました。同時に、迅速なサーベイランス体制の構築には、災害時と同様で「受け入れ側のキャパシティ」を考慮した上で施策を行わなくてはならないのだと身を以て経験させていただきました。



京都大学 西浦博教授と

学部学生という未熟者の立場で、厚生労働省にて3月より1ヶ月作業をさせて頂いたこと、そして今も尚りモートで業務に携わらせて頂いていることは、私にとって唯一無二の大変貴重な経験となっています。同時に、毎年一人旅をするほどアフリカが大好きで「将来はアフリカに身を捧げる!」と強く決意していた私でしたが、日本の行政や医療保健システムに疑問を抱くようになり、日本に残り感染症のサーベイランス問題に取り組みたいと本気で考えるようになった。私の人生を大きく変えた経験でした。

◆医学生

「専門家と一般国民の狭間で」
医学生は、「一般国民」と「専門家(医療従事者)」の間にいるのだと思います。医学生として医学の勉強はしているものの、医療従事者や感染症分野の研究者としての経験や



日本感染症学会 市民公開講座 FUSEGU2020 (新型コロナウイルス感染症と輸入感染症をテーマにパネルディスカッション)

医学部生ピックアップ!

それに基づく考えは浅く、新型コロナウイルス感染症に関して、一般国民としてメディアの報道等やSNSを頼りに情報収集を行います。一方で、テレビなどで聞いた情報が「科学的なエビデンスがあるのか?」と疑問に感じれば論文を引き、必要な時には周囲の医療系学生とアカデミックな視点で意見交換の場を設けることも可能です。実際に私自身、テレビで見た情報の詳細を知るべく色々な文献を読み漁っていると、テレビで放送されている内容と解釈が違った、といったような体験が多々ありました。これが個人の情報格差につながっていくのだと感じます。国難の状況下では特に、新型コロナウイルスに関わる全てのステークホルダー(国民・メディア・行政・研究者など)が連携をとり情報交換や意見交換を行うこと、つまり、リスクコミュニケーションが大切なのだと思います。世界中が一丸となり新型コロナウイルス感染症の研究や対策に取り組み、新たな知見が日々アップデートされることは非常に素晴らしいことなのですが、同時に、その情報を「どのように伝えるのか」に対しても重点を置かなくてはなりません。つまり、情報伝達において、「どの世代に／どのタイミングで／どんな表現で」という視点が極めて重要なのではないかと考えています。リスクコミュニケーションに対して徹底した対策を行うことは、人の命を左右することでもあり、差別や偏見から人の心の健康を守ることでもあります。

◆若者向け情報発信youtubeとリスクコミュニケーション

テレビの記者会見で「若者の皆さんの力が必要です」とよく聞きますが、我々の世代にとっては『若者』と聞くと少し他人事のような印象を受けてしまいます。そこで、若い世代が新型コロナウイルス感染症の問題を自分事に捉えられる様に、同じ年代である私



国立国際医療センター大曲貴夫先生との対談(山崎さん作成のyoutubeチャンネルにて)

から同じ目線で情報発信をしようと考え、情報発信youtubeを3月末〜5月の期間に運営しました。当時は厚生労働省でお仕事をしていたので、新型コロナウイルス対策の最前線でお働かされている先生方に直接出演していただき、また、5月以降は日本語が不自由な在日外国人の方々が情報格差に取り残されないように英語で情報発信を試みました。その中でも、特に若い世代に対する情報発信としては、若い人で、かつ、感染対策の意識があまり高くない人に届けるのにテンポをどう工夫するか? 尺をどの程度短くするか? を考え、年齢層に対応したリスクコミュニケーションの必要性を再認識しました。

私は、リスクコミュニケーションには2つあると考えています。それは外部のリスクコミュニケーションと内部のリスクコミュニケーションです。外部のリスクコミュニケーションとは、「メディア

とがあります。専門家の方々がテレビに出演された後、補足的な発言(例えば、科学的な視点での研究結果のリミテーションなど)をTwitter等のSNSでしている場面をよく見かけますが、SNSに精通していない方々にはその情報は伝達されません。可能な限り全ての世代で情報格差が生まれないように、それぞれの媒体で徹底した情報伝達が必要なのです。

次に、内部のリスクコミュニケーションとして、まずは、国の行政機関などの「中枢のステークホルダー間」で可能な限り連携を取り足並みを揃えた情報発信を徹底していかなければいけないと思います。国民は様々なステークホルダーからの内容に齟齬のある情報発信に困惑し、情報の不統一性を面白おかしく取り上げるメディアの報道にすら翻弄されることもあります。もちろん、日々新たな決定が行われてタイムリーに情報を発信していただくことは非常に意義深いことなのですが、行政のどのステークホルダーがどの様な連携を取っているのか、内部関係者でないとは不明瞭な部分は多いのではないかと考えています。それに加えて、内部のリスクコミュニケーションとして、「メディアと専門家」の間でも密に連携をとることが極めて重要です。専門家の先生方がご多忙の中で取材に応じてくださるので、メディアの都合で重要な部分がカットされて放送されなかったり、記事のタイトルを短い見出しにすることにより受け手に過激な印象を与える表現になってしまったり、といった事例がこの半年間で頻繁に起きているのではないかと感じます。

◆有事に『システムを柔軟に変容させる』ことのできるシステム

パンデミックの怖さというのは、国や地域単位で実務的な問題を解決しなくてはならない点にあると思います。局地的に起きた災害や感染症ア

ウトブレイクの際は、世界中のエキスパートが一斉に力を合わせて対策に取り組むことが可能なものかもしれません。しかし、新型コロナウイルス感染症のようなパンデミックの際には、各行政単位(国や州など)の既存の性質(医療水準・医療保険システム・政治体制・国民性など)を材料に、各々が感染症対策を講じる必要があります。その中で、感染者数や医療キャパシティの限界をどのように評価するのか、経済との両立に対する施策をどのタイミングでどのような形で導入するのか、これらによって結果が大きく変わります。各々の施策の影響評価を数ヶ月後に行うことができるものもあれば、数十年後に明らかになることもあるでしょう。まるで世界で大规模な実験がスタートしたかのような印象を受けます。

日本という国単位では、今回の新型コロナウイルス感染症の経験を最大限に活かして今後同じようなパンデミックが発生した時に対応できるシステムが求められます。システムを構築するために必要なものには予算を割いて対策を講じる必要があります。とはいえ、今後、私たちの生活を

脅かすものは感染症だけではなくのかもしれない。大規模なサイバーテロや近隣国の戦争に巻き込まれる可能性も否定できません。そうした時に求められるのは、パンデミックに対応したシステムだけではなく、「有事にシステムを柔軟に変容させることのできるシステム」なのかもしれません。

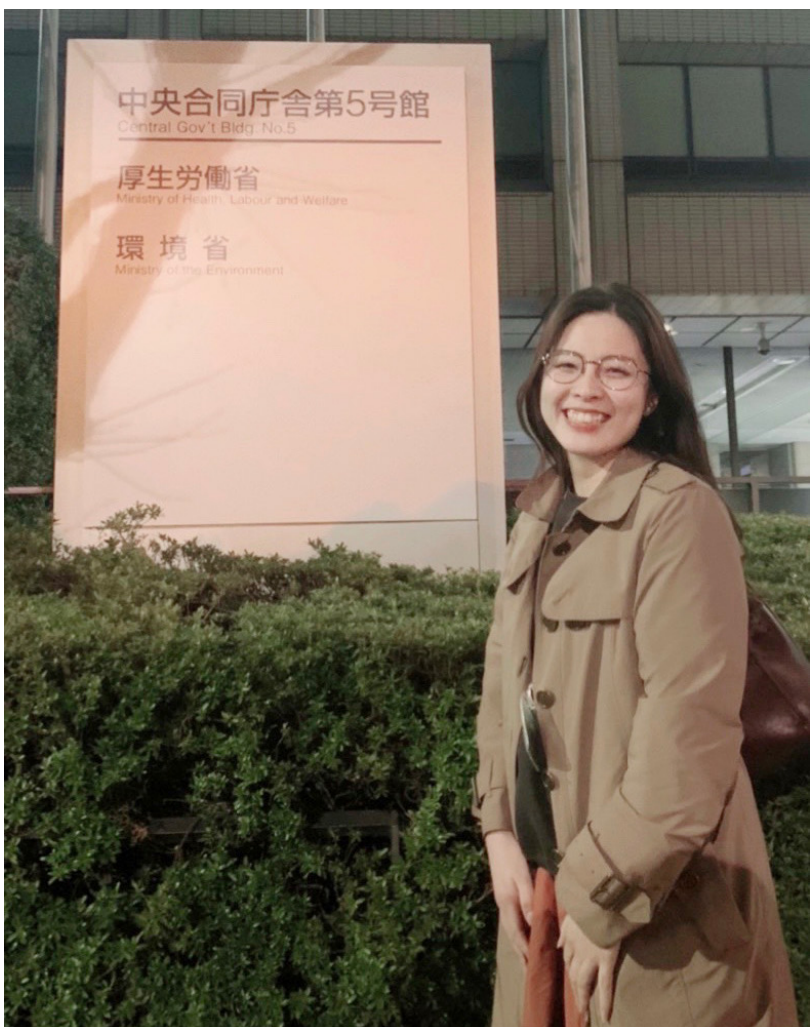
◆今こそ感染症をもう一度

新型コロナウイルス感染症で私たちの生活がドラスティックに変わり、世界全体が感染症の脅威を再度認識したと思います。新型コロナウイルス感染症で学んだ教訓の一つは、自分の住む地域で流行していない感染症にも目を向けることの必要性です。武漢で新型コロナウイルス感染症陽性者が初めて報告された12月には、パンデミックによって世界がこんなにも変わってしまうことを誰が想像していたでしょうか。(一部の研究者の方々は予測されていましたが...) 来年の7月にはオリンピックが開催される予定です。特定の期間・場所に同一目的で1,000人以上の人が集まる、いわゆるマスギャザリン

グ形成時には特に感染症に注意していかなくてはなりません。オリンピックが開催される時期は夏ですし、蚊媒介感染症であるデング熱やマラリア、他にも髄膜炎菌感染症などの輸入感染に関して注意することが極めて重要です。ワクチンで防げる病気なのか、ワクチンの他にどのような予防法があるのか、に関して正しい理解を深め、各々が対策を講じることが肝心です。今回の新型コロナウイルス感染症を契機に、今一度感染症の脅威を考え直し、自分の住む地域で流行していない様な「一見、他人事と思われる感染症」にも意識を傾ける必要があるのではないかと思います。

最後に、

大変貴重な時間を共有してくださった厚生労働省クラスター対策班の皆様、右も左もわからない私と共に業務を遂行してくださったデータ集積チームの皆様、平素より適切な助言を賜り、本業務のご案内をくださった錦織信幸先生、北澤先生、いつも精神的に支えてくれる母や祖父母、長崎の友人に心より感謝申し上げます。



最終日に厚生労働省の前で

先生の、こと。



前村浩二
(Koji MAEMURA, M.D., Ph.D.)
長崎大学医学部長
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
医療科学専攻 循環器内科学 教授
長崎大学グローバルヘルス研究科
教授

●西山樹、郡嶋壺
M―前村浩二先生

●―こんにちは。今日はお忙しい中、インタビューのお時間を作っていただきありがとうございます。早速、先生が医学部受験の時に沼山話した内容だと思のですが(笑)、前村先生がなぜ医師を目指したのか、理由やきっかけ等を教えてください。

M―私は親が小学校の教員だったので、自分が医師にならないといけないというわけではなかったのですが、高校3年生の大学受験の前に進路を考える中で、人を助けることができる、やり甲斐のある仕事を一生していきたいと思ひ、医学の道を選びました。特別変わった理由ではないですね(笑)。

●―ありがとうございます。では次に、前村先生は医学部長という立場ですが、それも含めて、普段のお仕事はどのようなことをしていられるのでしょうか？

M―これはみんな言うことだと思ひますが、医者の仕事は大きく分けて3つ、診療と教育と研究があります。それに加えて管理の仕事も教授などになると増えてきます。そして、医学部長になるとこの管理の部分がとても大きくなりました。

●―先生が医学部長になると、管理の部分がとても大きくなりました。具体的にどのようなことをされているのでしょうか？

M―そうですね。医学部長になると、管理の部分がとても大きくなりました。具体的にどのようなことをされているのでしょうか？

今号から新たな記事として、長崎大学の先生へのインタビュー記事を始めるとなりました。私たち学生は講義を受けるまで、また講義を受けたとしても、先生の為人や普段どのような仕事をしているのか知る機会はいりません。長崎大学医学部には優秀で面白い先生が多いので、学生や保護者、OBOGの先生方にもっと知ってもらいたいと思ひ、始めた次第です。内容は仕事の話から趣味や学生時代の話までザクザクと聞いているもので、先生も赤裸々に話しているものとなっています。

インタビュー記事第1号は医学部長の前村浩二先生と、COVID-19で奮闘している泉川公一先生から始めたいと思います。(聞き手/西山樹、郡嶋壺)

いた時もありました。最近では他の仕事の割合が大きくなって、自分の手を動かして研究することが少なくなり、医局員の研究のプランを立てたり、リサーチのカンファで方針を決めたりしています。そして、研究をするにはお金が必要なので、科研費や様々な財団の研究費などに関わって動くことが、申請書を書くことが今の私の大きな仕事です(笑)。

●―先生が医学部長になると、管理の部分がとても大きくなりました。具体的にどのようなことをされているのでしょうか？

M―そうですね。医学部長になると、管理の部分がとても大きくなりました。具体的にどのようなことをされているのでしょうか？

●―先生が医学部長になると、管理の部分がとても大きくなりました。具体的にどのようなことをされているのでしょうか？

M―そうですね。医学部長になると、管理の部分がとても大きくなりました。具体的にどのようなことをされているのでしょうか？

●―先生が医学部長になると、管理の部分がとても大きくなりました。具体的にどのようなことをされているのでしょうか？

M―そうですね。医学部長になると、管理の部分がとても大きくなりました。具体的にどのようなことをされているのでしょうか？

●―先生が医学部長になると、管理の部分がとても大きくなりました。具体的にどのようなことをされているのでしょうか？

M―そうですね。医学部長になると、管理の部分がとても大きくなりました。具体的にどのようなことをされているのでしょうか？

●―先生が医学部長になると、管理の部分がとても大きくなりました。具体的にどのようなことをされているのでしょうか？

M―そうですね。医学部長になると、管理の部分がとても大きくなりました。具体的にどのようなことをされているのでしょうか？

●―先生が医学部長になると、管理の部分がとても大きくなりました。具体的にどのようなことをされているのでしょうか？

M―そうですね。医学部長になると、管理の部分がとても大きくなりました。具体的にどのようなことをされているのでしょうか？



●―先生が医学部長になると、管理の部分がとても大きくなりました。具体的にどのようなことをされているのでしょうか？

M―そうですね。医学部長になると、管理の部分がとても大きくなりました。具体的にどのようなことをされているのでしょうか？

●―先生が医学部長になると、管理の部分がとても大きくなりました。具体的にどのようなことをされているのでしょうか？

M―そうですね。医学部長になると、管理の部分がとても大きくなりました。具体的にどのようなことをされているのでしょうか？

●―先生が医学部長になると、管理の部分がとても大きくなりました。具体的にどのようなことをされているのでしょうか？

M―そうですね。医学部長になると、管理の部分がとても大きくなりました。具体的にどのようなことをされているのでしょうか？

●―先生が医学部長になると、管理の部分がとても大きくなりました。具体的にどのようなことをされているのでしょうか？

M―そうですね。医学部長になると、管理の部分がとても大きくなりました。具体的にどのようなことをされているのでしょうか？



泉川公一
(Koichi IZUMIKAWA, M.D., Ph.D.)
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
臨床感染症学分野 教授
感染制御教育センター センター長

●—こんにちは、今日は忙しい合間を縫って時間を作って頂き、ありがとうございます。では早速、面接試験みたいになっちゃいますのですね。

(笑) 泉川先生がなぜ医師を目指したのか、理由、きっかけ等あれば教えてください。

●—医師を目指した理由はですね、うちの祖父や父が医者をしていたので、父が親戚の人を診療しているのを小学生の時に見て、やりがいのある仕事だと感じたからです。それがきっかけです。あまり特別な理由ではないかもしれませんが。

●—たしかに、医学部ではよく聞く理由かもしれませんがね(笑)。僕たちは泉川先生の記者会見を最近目にする機会もあるのですが、最近はどうな仕事をしているのか知っています。普通はどのような仕事をしているのでしょうか？

が出来れば、根本的な治療の方針を変えられるんです。大学や色々な所で研究している研究者はそういう夢を描きながらやっているのですが、僕もその一人です。

今はコロナを注力してやっている人が注目されていて、皆競争しているんです。だから君たちや僕たちは医学の進歩を目の当たりにしている。もしかしたら1年後にワクチンができるかもしれないし、明後日ポロッと治療薬が見つかったりするかもしれない。そういう医学的インタレストのある分野で活躍できるなら大学の先生とかは良いのかもしれませんね。普通の病院で働いていると患者さんを診るのが精一杯になって研究はなかなかできなくなってしまう。根本から感染症をやっつけるような研究も別口で必要だと思うけれど、そして、別々でやっ

研究に関しては、エボラにせよコロナにせよ新しい抗ウイルス薬を創れば、世の中に貢献できる。そういう研究は誰もがしているのですが、僕の専門は元々ウイルスではなくカビなんです。真菌です。僕がカビをやっている理由を話すと、移植をした人や抗がん剤をバリバリ使っている人、血液の疾患を持っている人は大体最後は感染症で亡くなるんですね。あまりにも抵抗力が低くなって普段健康な時は大丈夫なカビで亡くなるんです。そのカビを根元からやっつけれるような治療とか、早く診断できる方法とか、予防

り切りになってしまっているということなんです。●—まさにそうです。仕事としては3本立てと言いましたけれども、出来ない授業があったりとか、凄まじく忙しい中で確実にマンパワーが必要な環境に置かれているの、最近の仕事内容は本当にコロナに掛かり切りという感じですね。けれども、感染症専門の方々の中にはこのコロナの状況をチャンスと考えている人もいます。毎日論文や新しい情報が出てきていますが、これは使える。これは嘘だ。ということ

●—趣味はですね、ウインドサーフィンと走ることくらいしかないんです。●(笑) 本当は車とかが大好きで、若い頃にはすごく速い車に乗ってました(笑)。もうとにかく速い車に(笑)。なので趣味は車輪がついたものでどこか行くこと、それと滑走すること、のかな。

●—ありがとうございます。毎日論文や新しい情報が出てきていますが、これは使える。これは嘘だ。ということ

●—ありがとうございます。毎日論文や新しい情報が出てきていますが、これは使える。これは嘘だ。ということ

●—ありがとうございます。毎日論文や新しい情報が出てきていますが、これは使える。これは嘘だ。ということ



●—それは意外でした(笑)。僕も、部活もして、旅行もして、友達とも遊んで、ギリギリで進級してきたのですが、それと似たような学生だったんです(笑)。

●—もう本当にそんな感じですよ。では、次は泉川先生の学生時代の思い出を教えてください。

●—あ(笑)。これは正直に話すと新聞には載せられないようなことしかないです(笑)。

●—はは(笑)。国家試験はさすがに前もって対策や勉強をしましたか？

●—では、医学部6年間で1番勉強したと思うのはやっぱり国試なんです(笑)。

●—いや(笑)、1番勉強したのは細菌学でした(笑)。細菌学はあまり勉強せずに本試を受けて、それが留年科目だった後で知ったんですよ。で、周りの奴らから「お前マジでヤバイぞ」って言われて(笑)。で、必死に勉強して結局0.何点差で受かったんですよ(笑)。

●—追い込まれる気持ち凄く分かります(笑)。けどギリギリで通るのはやはり凄いですね(笑)。

●—ありがとうございます。印象深かったことはなんですか？

●—僕は最初に呼吸器内科に入局して、その中の感染症グループで働いていました。皆さんが医師になったらやはり、忘れられない症例が出てくると思うのですが、僕の場合も何件かあります。1人は10代の子で、小さい時に小児癌をして、プレオマイシンを使って間質性肺炎になってしまったんです。それで亡くなっ

●—ありがとうございます。最後に頑張れる人は頑張れる。なので、学生の時に頑張れることをしっかりと頑張ってください。ありがとうございます。かっこよく言います！(笑)。

●—ありがとうございます。最後に学生へ伝えたいこと、メッセージあればお願いします。



●—ありがとうございます。最後に頑張れる人は頑張れる。なので、学生の時に頑張れることをしっかりと頑張ってください。ありがとうございます。かっこよく言います！(笑)。

●—ありがとうございます。最後に頑張れる人は頑張れる。なので、学生の時に頑張れることをしっかりと頑張ってください。ありがとうございます。かっこよく言います！(笑)。

●—ありがとうございます。最後に頑張れる人は頑張れる。なので、学生の時に頑張れることをしっかりと頑張ってください。ありがとうございます。かっこよく言います！(笑)。

実録!! 学生インタビュー 「オンライン授業で起きた珍事件」

今年は新型コロナウイルスの影響によって、オンライン授業が実施されています。
今回は、学生から聞いたオンライン授業ならではの珍事件を紹介させていただきます。

【珍事件集】

- ・ZOOM の一限からの授業始まりに、おそらく実家から受けてた男の子が音声入ってるの気づかず、「俺まじ眠いんだけど、もっかい寝よっかな〜」って言うてるのに対してお母さんらしき人が、「あんたちゃんと聞かなきゃダメじゃない」って怒られてるのがまるまる聞こえてきたこと
- ・マイクがオンになっているときに、音楽やテレビを流してしまったり、電話がかかってきたり、一緒に授業を受けている人との会話が聞こえてしまったこと
- ・みんなビデオオンで真剣に聞いているのに1人だけ学生証の顔写真
- ・発表の時、画面共有したら保存されてなくて前日の資料
- ・いやお前その背景どこやねん、自宅待機やろ
- ・上着てるけど下着てなくね? (えっ? 笑)
- ・突如「別の人の彼女になったよ〜!」というワンフレーズを投下するシンガーソングライター
- ・突然爆笑してる人がいる (ミュートなのでみんな無防備)
- ・明らかに寝起きで参加している人
- ・規則的すぎるまばたきと微動だにしない人 (ん? こいつもしかして録画した動画? 笑 まさかね!)

以上珍事件集でした。

様々な珍事件がありましたね。信じるも信じないもあなた次第です。

学生の皆さん、くれぐれもマイクのミュートの ON/OFF には気をつけましょう。

インタビューに答えていただいたみなさんありがとうございました。

オンライン授業の目安箱コーナー

「今日の新型コロナウイルス感染者数は・・・。」と、毎日のようにニュースで報道されるようになり、既に半年が経ちました。パンデミックによって、隠れていた様々な問題が顕在化し、世の中の常識が大きく変わっていくのを日々肌で感じています。臨床実習の最中にあった私達5年生は、一度も病院に足を踏み入れることなく前期が終わってしまいました。しかし、その間、Zoom や Webex などの Web 会議システムを用いた「オンライン実習」という新しい形を通して、各々が医学知識を拡げる努力をしてきたのではないかと思います。では、実際どう感じていたのでしょうか。一部ではありますが、医学生の生の声を紹介したいと思います。

満足している点としては、「メンバーそれぞれが担当する症例を、皆で情報共有しながら進めることができ、得られる知識が多かった」、「メンバーの模擬面接を見れて勉強になった」、「指導医の先生とじっくり話せる機会を持てよかった」、「その場で分からないことをすぐに調べることができ、講義に集中できた」などの意見があり、少人数での双方向コミュニケーションを得意とするオンラインシステムのメリットが十分に生かされていることが伺えます。また、オンライン講義以外でもメール等で課題のフォローをして頂けたこと、オンライン実習では困難な外科的手技に関しては縫合キットを自宅に送って頂けた等、先生方の熱心な指導に感謝しているという声も多く聞きました。一方で、「患者さんとお話ができない」、「手技や検査、手術が見れない」など、技術的にどうしても叶わないことがあった点も否定できません。しかしながら、この数ヶ月の間で、現在のオンラインシステムの技術で可能なこと、不可能なことが明確に見えてきたことも確かです。今後しばらく続くであろう with コロナ時代、状況に応じて、これらをうまく使い分けることが大事なのだらうと感じています。

(医学部医学科5年生 金好智子)

学生へ調査! コロナ期間に始めたこと

ネイルサロン始めました

「普段なら実習や実験で何かとおしゃれが制限されてしまう医学生。このオンライン期間を利用し、いつもはできない『ジェルネイル』をセルフで習得してみました!」そう言って素敵な趣味を教えてくださいましたのは、医学部(3年)武田 玲依奈 さん。ぶつくりとして愛らしいジェルネイルを、友人に施したり SNS に投稿したりしているそうです。お家にいてもおしゃれを楽しみたい皆さん、ぜひサロン玲依奈を覗いてみてはいかがでしょうか。



他にもこんなこと初めてみました

ストレッチで体をしなやかに

ハーブでベランダ菜園

日記をつけて1日を整理

ギターで好きな曲を練習

絵はデジタルに挑む時代です

「あつまれ どうぶつの森」始めました

医学部(2年)越本ありさ さんは、任天堂の「あつまれ どうぶつの森」(以下、あつ森)を始めたそう。あつ森は、崖を作ったり崩したり、川や滝を作って無人島を開拓していく、最近流行の任天堂のゲームです。

「コロナ渦で外に出られないながらも、数年ぶりに高校の友達とゲームの中で遊べるし、自分の島を駆け回ること、外で遊んでいる気分を味わえる。これからは理想の島を求めていきたい。」と越本さん。私も越本さんのあつ森の様子を、Twitter を通じて楽しく拝見しています。コロナの自粛期間でも、自宅で友達と楽しく交流をはかれるのは、とても嬉しいですね。



手の込んだ料理も作っています

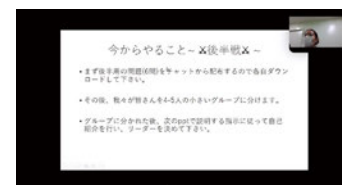
한국어 공부 열심히 할게요
(韓国語の勉強頑張ります)

オンライン 部活動紹介

例年 4 月の初旬に行われる生協パーティ兼部活動紹介ですが、今年は新型コロナウイルスのためオンラインで部活動紹介が行われました。室田先生から新入生に対するお話があった後、各部活の代表者による部活動紹介が始まりました。スケッチブックを使ったり、ビデオやプレゼンを準備したりなど部活によって特色が見られる形となった部活動紹介。また 4 年生総代による長医クイズ大会が開催され、新入生のアイスブレイクの機会を提供しました。例年と違い勧誘活動ができない状況ですが、新入生にはぜひ自分にあった部活に入部してほしいものです。



話をされる室田先生



お手軽コブサラダ

○材料 (二人分)	サラダチキン	一つ	コブドレッシング	
	きゅうり	一本		
	トマト	一個		
	リーフレタス	適量		
	ブラックオリーブ(あれば)	八個		
	他にもお好みでアボカド・チーズ・ゆで卵など			
			・マヨネーズ	大さじ1と2分の1
			・牛乳	小さじ1
			・トマトケチャップ	小さじ1
			・タバスコ	少量
			・塩	少量

- 作り方 ①チキン・きゅうり・トマトを1.5~2cm角に切る
②ドレッシングの材料をよく混ぜる
③お皿にレタスを敷き、具材をいい感じに並べ、輪切りにしたオリーブとドレッシングをかければ完成♪

1人暮らしのレシピ集♪

コンビニでも買えるサラダチキンを使った
お手軽サラダです!

野菜が不足しがちな一人暮らし、見た目にも楽しくてヘルシーなコブサラダを作ってみませんか?

あまりに簡単(適当)レシピでなんだか申し訳ないので…豆知識でも。
コブサラダの名前の由来は、レストランオーナーのロバート・H・コブが冷蔵庫にあったもので適当に作ったから、だそうです。
(余計に適当みが増したような気がいたします…)

皆さんこんばんは。今年の夏も暑いですが、いかがお過ごしでしょう。在宅が多い日々では外を歩くことも少なく、エアコンの効いた屋内にいることも多いでしょう、しかし逆にその分、たまに外に出ると普段よりも暑さにやられてしまうことも多いかもしれません。熱中症に気をつけましょうね。

さて、今月も読者の方から寄せられた相談から抜粋して回答していきたいと思いますが、何故か今号は長く付き合っている彼氏との将来についての相談が多かったので、1つにしっかり答えるという内容となっております。



- Q. 2年半付き合って春から同棲している彼氏と、地元の昔から好きだった人との間で揺れています。私は将来地元に戻りたい、もしくは地元の近くで働きたいのですが、今の彼氏は将来彼氏の地元と一緒に暮らしたいと言っていて、またそこは私の地元から遠く、キャリアブラン的にも本当に悩んでいます。そんな時に、高校の同級生で地元に戻ったら必ず会っていた人に将来を見据えて付き合って欲しいと言われました。なんと彼の就職場所がたまたま私の最寄りから一駅隣になるらしく、彼氏のことも相談していた間柄だし、仕事にしても地元に戻る可能性があって私の将来にも合います。彼のことは昔から良いなと思っていたので、今の彼氏との間の将来の不安あって凄く悩んでいます。(24歳女性 がむしやらな検査技師)
- A. やっぱり、まずは彼氏に将来自分がどうしていきたいのかを改めてしっかり伝えて話し合うのが大事だと思います。自分が地元に戻りたい、近くで働きたいという思いがどれほど強くて大事なかをプレゼンして、逆に彼氏が地元に戻りたい思いをしっかり聞くべきだと思います。その中でお互いの妥協点を見つけていくべきかと。結婚って気持ちだけじゃ難しいことで、決めるにあたって、それこそキャリアブランや、どこで子育てしたいか、実家との行き来は、みたいなことも大事な条件です。人生においてその優先順位は人それぞれで、結婚して仕事を辞めて主婦になりたい人、結婚しても仕事は妥協したくない人、色々な人がいますが、がむしやらさんにはやりたい仕事があり、優先順位もきっちりあるように思えます。改めてその優先順位が自分の中

でどこまで妥協できるか考えられるチャンスかもしれません。また、その中で本当に大切に譲れないことは絶対に譲らないでください。なので、話し合いを経て自分の譲れないことと彼氏の譲れないことで妥協点が見つからなければ、彼氏と別れて、その地元の同級生の方にいてみるでもいいかもしれません。2年半も付き合うと今までこれだけしてもらったとか、色々なことがあったかもしれません。けれど、そこは無しにして考えてみてください。彼氏が何かをしてくれたのも向こうの人生。がむしやらさんが生きているのは、がむしやらさんの人生です。相手を思いやってどこか妥協する優しさも大事ですが、自分にも優しくすることも大事です。今の彼氏、地元の同級生、どちらと付き合うことによって、自分の将来にどんなメリットと妥協点があるのか、それを列挙して比較してみるのはどうでしょう。地元の同級生とは同棲もしていないので今の彼氏と違ってまだまだ分からないこともあって、そこに24歳で飛び込むのは冒険かもしれません。けれど、心のどこかにやるせない思いがあり続けながら、宛ら靴に小石が入ったままこの後の人生50年を歩いて行くのはもっと大変になると思います。なので、まずは彼氏としっかり思いの丈を話し合ってみてください。人生の岐路の一つに立っているともいえる状況なので、妥協せずに話し合って欲しいです。これだけ私が色々書いても結局最後決めるのは自分です。後悔しないような選択をして欲しい、がむしやらさんの今後の人生の幸せを心から願っています。

今号の映画紹介

西山 樹

“ジェネラル・ルージュの凱旋”(2009)

監督：中村 義洋
出演：竹内 結子・阿部 寛 他

現役医師・海堂尊の小説を原作にした『チーム・バチスタの栄光』の続編。チームバチスタ事件の一年後、東城大学病院内の倫理委員会の委員長を務める田口のもとに、「救急救命センター長の速水と医療メーカーが癒着し、同センターの花房看護師長は共犯である」旨の匿名の告発文が届く。院長の依頼を受け、調査に乗りだした矢先、同様の告発文を受け取っていた厚生労働省の役人、白鳥が現れる。
速水にかけられた収賄疑惑、その裏に隠された真実と思いは、救急救命のかかえる問題、そして「ジェネラル・ルージュ」の本当の由来とは…。

「ジェネラル・ルージュ(血まみれ將軍)」の異名を持つ切れ者の速水センター長を堺雅人さんが、冷静沈着な花房看護師長役に羽田美智子さん、癖のある役人白鳥を阿部寛さん、通称「愚痴外来」の田口医師を竹内結子さんが演じています。
『バチスタ』のほうを知らなくても単独で楽しめるミステリ作品です。各所にギャグがちりばめられ、かなりエンターテインメント色の強い映画ですが、大規模災害時のトリアージのシーンと「マスコミのヘリは飛ぶのに、どうしてドクターヘリは飛ばないの!」という台詞は初めて見たときから強く印象に残っています。
最後に。「チュッパチャップスはほどほどに」。

“SUITS”(2011～2019,全9シーズン)

監督：USAネットワーク
出演：ガブリエル・マクト、パトリック・J・アダムス 他

舞台は、ニューヨークの大手法律事務所。敏腕弁護士ハーヴィー・スペクター(ガブリエル・マクト)と、天才青年マイク・ロス(パトリック・J・アダムス)がバディを組み、さまざまな訴訟に挑む弁護士ドラマ。2011年にアメリカで放送され、初回視聴者数が460万人超を記録した全米大ヒットドラマ「SUITS」。ご存知の方も多いと思いますが、日本でもフジテレビがリメイクし、織田裕二さん×中島 裕翔さんで月9に放送されています。日本版SUITSは原作に忠実に作られているとのことなので、日本版で面白いと感じた方は、原作も是非チェックしてみてください!!現在、HuluやNetflixにて、シーズン8(全9シーズン)まで見ることができます。実習で先生方にご飯に連れて行って頂いた際、SUITSの話題でテーブルが盛り上がったこともあります。先生方も結構観られているんだなあと驚きでした!気になった方はぜひ観てください!

編集後記

学生最後の年にコロナで自粛するとは思ってもみませんでした。自粛しながらマツチング、卒試などなど、モチベーション維持や情報を貰うのも一苦労です。普段周りに友人が居るのが有難いことなんだなあと思い知らされました。暫くはオンラインで友人や先輩と繋がりがちな頑張っていききたいと思います!

6年 白井 貴浩

とうとう6年生になったと思つたら、もう夏休みの終わりになってしまいました。国試に怯えている大熊です。夏明けには卒試にOSCMにマツチングもあり恐ろしいです。なんと、ぐびろが丘新聞に関われるのも残り一回となってしまいました。コロナによりイベントごとは少ないですが、私たちなりに新聞から長医を盛り上げていければと思います! (6年大熊 怜)

新しい生活様式を、と言われ出して半年が過ぎようとしています。旧友と定期的なりモート会を開くようになり、普段なかなか連絡が取れなかった仲間達とのリモートコミュニケーションが密になったように感じています。ポリクリの最中、これから実習がどうなっていくのか心配ではありますが、今出来ることを探して頑張っていくしかないと思っています。皆様に楽しんで頂ける記事になつていれば幸いです。(5年金好 智子)

ウィルスという見えない脅威に怯え始めて約半年が過ぎました。家で時間が増え、自分の今後を考えたり短所を見つめ直したりと、この期間は私が大人になるのに必要なだったのかもしれない。これからもいるんな制限付きの生活が続くでしょうが、前向きに捉えて行こうと思います。(5年山内 翠)

新型コロナの影響で実家の関西に帰れなくなつてすごく悲しいそんな夏休みです。比較的時間があるこの時期は、地元の友達とオンラインで話すなど意外と悪くない部分もあるのかなと思います。今回の記事は、自粛生活ならではの記事も沢山あつて面白いので、是非皆さんにも読んでいただくと幸いです。今後もし良い記事目指して頑張りますのでよろしくお願ひ致します。(4年清原 翔徳)

忍び寄るOSCMの足音に必死で耳を塞ぎながら夏休みを過ごしています。富田です。未だ収束の目処の立たないコロナに加え、連日体温か風呂の湯かを見間違ふ最高気温を更新していきますが、皆様どうもお身体にはお気をつけください。今回は初のリモート編集会議、新たなコーナーを加えた「挑戦」の号になつてます!いつもと違った魅力もお伝え出来れば幸いです。(4年富田 藍子)

年々夏の暑さが常軌を逸したものになっている気がします。ストックホルムで過ごしていた時、夏の朝は特に涼しく(寒く)、コートを着ている人も多かったのですが、その中をTシャツ1枚で歩いていたのは代謝お化けの私だけでした。そんな夏を経験した私にとって日本の夏は非常に厳しく、外を歩く時は地獄のデスロード宛らです。新たに2年生を迎えた新聞部ですが、ロクな歓迎会もできず、6年生の追いコンも開催できるのか非常に不安です。限られた機会と時間を大事にして今年も駆け抜けたい、そう強く思いました。(3年西山 樹)

世の中は未だコロナコロナですが、いつ収まるか「よりも」、「どう過ごすか」を模索するようになり、WSJコラムを感じる今日この頃です。私の編集長という立場は今回の記事で最後になるようです。学校がないため記事のネタ不足を危惧しておりましたが、いつもに増して今回の新聞が(編集後記含め)ポリュミーかつやる気に満ちている気がします。これも、2003記事会議で部員全員が一生懸命考えぬいた成果ですね。皆さんに楽しんで読んでいただけることを祈っております。(3年武田 玲依奈)

今号から新聞部に参加させていただきました。2年の郡嶋です。中高の同級生たちの就職などが決まっていたこの夏。友人たちとがつり集まれる最後のチャンスだったかもしれないのに、コロナ、という感じで、少数の友人とお散歩に行くくらいで終わってしまいました。仕方ないですね。そんな中でも様々なオンラインイベントがこれを機に、とたくさん開催されているおかげで充実させることはできています。ただ、そんなイベントが多すぎてお財布が苦しいことになつてしまいました。頑張って生きます。これからいろんな記事を書いていくので読者のみなさま、そして新聞部の部員のみなさま、よろしくおねがいします!

2年 郡嶋 豊

初めて、グビロが丘新聞の作成に関わらせていただきました。普段の趣味はカフェ巡りや旅行なのですが、コロナ自粛のせいもあり、今年はずっと家で、屋外ばかりで過ごしています。そのおかげか数年焼けていなかった肌がこんがりと焼けてしまいました。冬で白さを取り戻します。バイトができないせいで、お財布も厳しいです。頑張って生きます。これから、読者の皆様、どうぞよろしくお願ひします。(2年 夫津木 綾音)